Kodak Color Control Patches
© Kodak, 2007 TM: Kodak
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
Kodak Gray Scale
© Kodak, 2007 TM: Kodak
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

馬医醍醐　後之第四
麻布大学所蔵

後之第四

一百問答　　三十卷

以上

百問答卷第一

平仲國起蕉儀紀新例云安國眼心盡亘古学
此道未至極不暗安中但草木雖爲雨露恵不
等紅緑苔日馬師皇之四第驥禁驥讀安誦豊
皇雞経脈病証脈脉論各也然則爲試両主
智謀仲國百ケ条之病品書出依判註其是非
百問答凡此抄物分明成肇至仲老〻極位安國眼
心之入胸中病馬療藥不知疑惑雖然不文師説
行之豈明白

百問答卷第一

一

結馬安國云畢竟毒之大腸毒上下痛熱胃腑湯
病くこと熱ハ中毒虐より出て熱ゆえ古人会毒中ハ
是しハ則ち人ことに熱ハ則治合茱萸大腸胃腑の
湯ハ人参ハ茱萸ハ茱萸ハ充力之故結る合茱萸
陰毒の中ハ大方君之脈心云充古来人に至て結る不至
大腸ハ養ゆえ結ることくしてハ熱大腸胃腑へ炎こ
と故胃腑毒ハ有て呉茱萸ハ結るハ結
病ハ熱ハ熱ハ出仲圓判云相方ノ語脈
結るハ結ノ邪熱食熱ハ結りて結とゆえ則又
毒中病ハ大腸養ハ胃腑と熱と結ゆえ

子ト云ハ病ハ足結るの中病ハ毒ハ出ハ
毒と後ハ結し又中病ハ結ゆえハ毒と出て浮茱ハ
結して結し古人会結ハ結ハ牙一毒ハ出会ハ
結牙二脾胃熱積りて如し牙三結腸ハ毒也食不
消ハ結牙ハ動ハ結ハ足ハ茱萸ハ久ハ茱萸ハ未定
小腹ハ依例共食不消ハ成し古茱萸加減ハ注と
れしも為人ハ月足ハ之ハ消之

一 厚朴服ハ云膀胱熱ハ小腸腑熱ハ如し但胃
腑ハ病ハ膀胱熱ハ小腸熱ハ布熱ハ也
年老膀胱熱ハ出ハ合病ト見人ハ安毒云ハ病ハ膀胱

し熱ノ甚ダ下焦ニ出テ小便ノ通早キ者ハ毒ヲ泄ス
ハ尿ノ毒ニ出テ仲圓判云尿ハ元腎腑ノ
熱ノ甚ダシキニ出テ腑ノ自理不叶合為ル故ニ尿ト為ス
ル故ニ尿ノ出ルハ元ノ尿ノ多キ故ニ尿ノ毒ニ
ハ尿ト為ル故ノ毒ハ始ハ尿道ヨリ出ル
病出ル事尿後尾ヨリ病ヲ為ル故ニ
ニ出ルニハ必ス先ハ尿ヨリ出ル故ニ
八年夫毒ヲ先立テ古人モ論シ尿道ヨリ出ル故ノ五淋
病ト名付ケ論ハ一向別也安圓甲
毒腑安圓云五腑六腑ハ何ノ毒ヲ指出ス

之ヲ一切毒一五圓毒一長毒ヲ以テ中毒ハ下焦ヲ指ス圓
毒ハ脾胃ノ物ト為ル也毒ヲ大腸ノ物ト為ル是毒ヲ暑ニ隨ヒ
食ヲ食ニ依テ物ヲ出ス為ル早夫毒ヲ暑ノ時ノ甲ノ時腑
ヲ不離ル治眼心云毒ニ時ノ不守毒ヲ暑ノ辛只毒ヲ
不ル為ル食ヲ加減ス大抵毒ノ寒ノ治ス毒ヲ古人モ
腑ノ中道ヲ為ル為ル物ハ毒ヲ暑ト人ニ時ノ
毒ノ為ル為ル仲圓判云相ノ治住也ト以
あやまり多く病ノ毒ト論ノ元ノ論ノ者ヲ
やまりと定ル者ノ毒ヲ暑ノ者ニ守テ元ノ行ル
にあやまり也三ノ外

馬師皇云毒あまたはるヨリ

あるいは五出は五臓に五臓は肝肺胃心腎の陽の要
陽の要につけ二臓一臓にいたるまでの合すもの要もあり
嬉記すむ要もまたこれをいさむ要もまたこれを五臓一臓
とあるべし行要過ぎたるの合も又失又は過要とは五
臓六腑離中集ると袋中抱こし杯こ宝暮人食の遠近
とい袋に出るや治ると云も古人一生に要に宮に治せんとの
療法安中にんてもいそんや臓腑以人ものもまた要
と宮せんとの合業に成るのうつるにもに宮ストニ只腑腑に
あるものの要に中ぬ所と合業肝要と見るべし

一石問答奏第二

一

内経眼に云肺の邪風に感ず経合此邪風に感ず如し合業
も肺の虚に補しに感ずれば療業は年老人下虚しうる安
因云門経に肺邪風に感ずこれ只常の動脈肺に後如し
るの風息病に感ずれば病出ずれば依之拾古来に病宮に合業
も病に出ずこれ肺とあるいは母に仲間判云者此し
風息感して如しとい古人に教門経と者附又五教し
門経と云は動脈の息肺に論に三教の血乱内乱色と
に動脈は八邪の中七情めるとし色は物とに宮
教に此とは病に七傷八邪とのかるといかし只
合業あは肺と昌に腸に補に邪風に治スル加減考一ノ

之他ヨリ

一

瘡安國云備邦動脈血道ヲ治シ脈ハ古人合案
ヲモ血ヲ治スルトアリ瘡治ハ血藥ヲ治シ其後法ハ
先ハ血ヲ治スル也肉破ル也ハ血病ヲ治ス眼ハ
云瘡ハ血病ヲ治スル也ハ肉ハ先ハ脾病ヲ動ス故ニ血
肉ハ共ニ故ニ仲國判云安十七ヲ瘡ヲ方ニハ腫十二
瘡ハ先ハ脾之所ニ病ヲ中シ脾ヲ瘡ヲ生ス故ニ
ヲ生ス故ニ瘡ハ先ハ血瘡ハ常ニ先ハ生ス
脾ヲ治ス故ニ人ハ先ハ瘡ヲ治スル事ヲ能ハ隨後治法ハ血藥
ヲ治ヲ皮肉ヲ治ヲ先ハ如此ヲ

一

新ヲ以ヲ古人先ハ三ツ守安中シヲ云ヲ
眼病眼ハ云眼病ハ以ヲ先ハ血病ヲ下焦屬ハ上實ハ心ノ血
新ヲ上病ハ先ハ打用ハ邪ヲ病ヲ云用ハ肝ノ屬ノ皮肉悪
血ヲ為テ血枯テ如シト云安國云眼病ハ腎脉血藥ノ
上實ハ云分四月ノ屬ヲ以テ脈ニ藥上ニテ如シ云ハ眼病
ハ胃浮如ハ云ハ如シ以ヲ以ヲ上實是
眼病ハ如但ハ胃ノ屬ニ二十腦痛風眩ヲ云ハ
或ハ筋ノ中ヲ上實ハ脈肝ハ云ハ眼清肝
ハ下焦ハ云ハ馬眼病ハ如ハ答不分明仲國
判云相方ニ脈ハ名ヲ字ノ病ハ眼病ハ安瘡大小是

ホニさせんとするに不一二のそこ
ろ先腎虚の工実しるに用るもくすりに肝の実する
ゆえ腎は元水也腎の水虚ぬれば
肝あつまりうるおいなく不見ちから
ちてたんある又虫同て足に用いうんさのとく入湯乃ばい用
口或ばりしゆ元おい肝の虚熱に用脾虚ちゆ用け
常に生物を不見ハ脾胃の熱に又云内経法自細法
りの白きあるハ肺大腸の虚熱に元ハ用経赤中法
ゆもまた病後あるまゆ例に又久肺邪風熱に低用熱
故に内経に吹もまた是ハ湯を法スハ夏一番一名痛法第
切病に不離心の切病にそこへ合て南流に法せしに年
老人云字云者ならつて

百問答第三

一

寒熱の病安國云名虫に中虫中に風水冷或ハ極熱に
ゆえ初虫の風ばりさまに虫極ばりおり年老切第虫の
又云虫腸大腸に入ばけ大腸の虚冷に入て脾胃も又め
ば熱の病内有眼ん云名熱病或ハ語ばりく
風水に冷或ハ極熱暑日におりさまに虫さ一出ん安驥牙
丸熱邪の内ずに病に法スハ虫熱ばやさい安驥牙四身
病論に細に位せりに中ハ病熱の虚ことに云ハ法脾虚冷に

芒とるやむ又云伝服伝脚熱しはて人食ッうとこ伝て
腸とるやし也云何ぞ云さし伝るものもを芒に大伝之
云ぞ云とそれるの云薬に只もとと仲間判云方服ん
乃語古人ッ失立テ古来不能芒如ッ伝伝言も中もと
らもを乃痛と云云風ふ云ぞ冷へ伝服屋ッさけるる熱
義類に食ッうとこさるるかおりるうらうてなるいと
云類熱乃痛と云温証乱昏月おるれ大息一耳
根汗出類ッ也芒食当芒所とりて打如りく
痛るいぶ一十二病たこうに伝とりて痛に云云云西人四答
に定熱乃やこ云不的ッ云やあつれ

一

伝のふ食服心云不食に中病ッ云別ッけるる病
ッ事の申しるる和茶或に汁或食のももと加減し
事病と伝もるを迄へ別不食乃伝古人も不論
安間云芒伝病たこ食ッ事ッいる一病未盛ッる時
に食ッもてこ漢に随テ食芒ぶ古人自芒ぶ食ッ論ッ
一不食と云服平ッ小ッる乱法一て伝てもおるるあ
ッ変ぶもるる芒服力もるるとふて大法食ッうとも芒病
あるも事のるる志ッるこキ七傷ッこ多ッ食ッ不見是ッ類
体と名牙病ッに古来しこいたりてふ論
仲間判云芒安寺れ服心語あやまり多ッ陸法安壁牙

丈八ニ細ニ論糠沙と云いるハ元祖山の高足人合ニ交て
元祖食ニ味と云ふと安岡今日問答ニ出ル一八矣人念ヲ八月
足をつゝおろかなと云て

一 肖を眼ん云大腸の虫肖ニあり法ノ業陰ノ業ハ下
焦ニ通ニ法ハ入ん ふおそ〜たを知ん虫肖ニ入て
ものの業大腸と浮ニ中虫ニ法加減ニ元化安岡云法ニ虫虚ニ
ふ〜ス故ハ脾胃虚ス時ハ脾ニ虫ト現ス腎臓肝虚ハ下焦
ノ虫ト云ふ者ニ業過ありさ有ニ肖悪血ニ成て
血行宝ニ虫ニ成ハ云て成し

仲岡云安岡古人法ニ先ニ元ヲ甲

一 癲ニ安岡云癲ハ元形病ニ但動骨筋肖ニ成
ル時ハ方血道ニ成ル心の血四ニ下血熱ニ成ル
いるも云年元血と成ル 元ニ心ニ病ル心ノ風ル加減ニ
別ニ元ふ〜眼ん云右の諸ノ中癲ハ形病ノ血熱ニ
法ハ病ニ病ル成ル成ル病ニ称筋法ハ病ル病ル
の性法ハ成ル成ル大ハ成ル〜病ル
ニ人ハ成ル又ニ成ル筋細ニ性ハ成ル成ル癲ハ
元法ハ成ル血下ハ成ル文云熱法ハ成ル人ハ成ル又時の四ニ
数百里宗息法ハ病ル病ル病ハ筋骨血病ル
く病ル病ハ大腸ハ病ハ法ハ云ハ成ル癲ハ二方一病ル仲

図判云眼ハ五脂之度甲

百問答巻第四

一 牙関眼ハ云ヒ五労七傷ハ形ヒテ筋骨疼腰腎
脚ハ乾ハ多ハ中ハ如ハ乾ハ安図云ヒ眼ハ徹ノ妙
実心肝五臓ヒヒ五ハ病ハ骨ハ又則ヒ
冷ノ病長滋ハ牙関ト如ハ目ハ又筋脈虚ハ
ヒ年老虚相滋ハ又眼ハ云ヒハ則ヒ
冷ハ滋ハ又虚滋ハ場ハ筋目血道疼ヒ
ヒ自ヤ言ヒ是図前ハ又是ヒ病ヒ
ヒハ業ハ相ハ滋ハ時安図ヒ眼ハ甲

一 負ル安図云切疵射疵ハ若図前ハ射疵ハ
ハ疵ハ疵ハ図前ハ疵ハ
ハ内薬ヒ先ハ治ハ切疵ハ年老ハ薬
ハ内薬ハ二味ヒ先ハ治ハ眼ハ云切疵
射疵ハ疵ハ疵ハ薬ハ
ハ射疵ハ疵ハ疵ハ薬ハ
ハ疵ハ筋疵ハ方ハ薬ハ疵ハ薬ハ
ハ疵ハ治ハ疵ハ疵ハ
ハ疵ハ内薬ハ
仲図判云ハ方ハ服ハ疵ハ胸肩或疵

股肱の如く手足のごとく疲育とこれを病と共立て
治せ筋骨とおいるく肉筋とを立て治し又会亮
るい骨に肉筋不離治スル生るい肉筋付筋癒治シ
肉骨シ骨肉治し老るるもの治されい心つ通
食とこれを治スル支とそし

一

大癤脈ん毒とつ毒肉のあるとの動ク骨脊痛
うと骨癤と名付ル和化 安国云ふ骨五
腸六腸のごとく動ク方こうた和と以骨癤
と名付ル以大癤と云 仲国判云根方化動ク方い
根落ル以骨の癤とこれ動ク方癤の長短

のごとく骨とこれ動ク方と一歩ふ動ク方と大癤と名
付ル云腎孔食ル病所の中るる動ク方癤の長短

一百問答巻第五

一

病病安国云病病ハ二ト云ハ毒ハ二ト云ハ毒ハ或ハ腸腸う
也食消ん毒と不好ハ邪毒を形化胃腸と腸いる
こ病こ病あるいは温食とるるー又夕日ふてこれ胃
腸いこと病病ハるもて冷ハ病病とハ補樂病病と
冷ハ毒と加減し病毒とるるもし脈ん云病病
ハ安薬分れ化ス強と以ル金銀ノ人又
私ハ毒ハ通ハ五病ハ病ハるもきる毒こもて動ハ毒不

張胃脾之腸まもることを右腎の火左腎の水一方
おとろへ長病病となる腰痛寒熱さしもをも
病病となる危衰し腰痛ひるして食さしこと
病病となるもまた或は内経第或は腎虚とあるもの時病
汁の病はりて尚熱しこれ病となるまた米は食菜
少し病病心とまたこれと治す安藤牙九三五病と云五
腰ごさめてこれと書たる字ミを暑の二病とさめ是
はるのこと安藤牙七月三文ごとしこと
仲間判云安藤六十巻こる時皇云万病ごとるおり
とこをを暑の二病ごとるとしと書ともさ

一

そて安藤云ていまを色の二切剤人腰痛脚痛或は生
死の根命のまを也服甲
打撲眼心云打撲是血病人打ちあうち悪血とりこ
皮肉筋骨のいたとこをもて治す腰脚おりの加減か
安間云打撲もさまるうたを人胸ごとを打ち
血ちらさめるあるを心ていを治をちんと熱大食食
骨入ことをはらく打ちを血を後腑ごとを胃脚ち食
と陳ち書ちとを疲おとろへ或は下脚ごを打腰と
ちていあを腎おとろへを血枯腎虚とを長大方ごを打
皮肉ごさめを五蔵ごを減ち仲間判ごとを安甲

一　腰内癰安固云腰ハ内癰大腸ニ入ハさんけ背ニかゝり腰といふを
初ハ内癰あしきもの病背ニひゞきいたむ故ニ大
腸の内癰のうへ腎とかく背ハ固ナレハ腰内癰結ル
とかくし治すれハ此ノなんのひらかすして以内癰の二
字ヲ除く脈心ノ云古今とも多くひらくとはかりて書ること
然ハ肺ニ虚熱あれハ必ずまつ背ニ下ル下焦ノ痛ハ腎膀
胱ニかゝるまた或ハ内癰ニ成して病ハ膀胱より或ハ膀より
さかゆけハ此熱ハ先肺ノ病也或ハひろく或ハ痛股鳥頭など
此薬ハ腎虚熱ニハあしきまとも先ハ内癰の薬もて治
し平気ハ肺の病とも内癰ニ二字肝要とみへたり

一　仲園判云此病ハ先ニ多くハ腎の虚也先ニ此内癰膀胱ニ
入ル先ハ其病腎虚少ニ之ヲ此内癰合病也又云内癰先ニ云
て肺虚下焦足滿なれハかならす不ニ頻下ルも必治結
古人も内癰ニ多くの薬治ス内癰薬其薬ハ及
膀胱ヲ補腎ヲやらふを第一也治ハ加減在ル安甲

百問答巻第六

一　面息病服心云諸ノ息病ハ肺病也先ツ審て息治すべし
病ノ形ヲ不病ハ此先脈動ヲ息法ナれハ肺ノ風治也又風
息も又甘是も肺病也安固云息病ハ風病一般ニ諸虚
の論ニ云かくて風病熱病ともにひくし諸臓の以念

んとする風病あるいは手足なれい筋病ある時多くは大離
いかり笑い地水火風の脈病ゆえに仲間判云法ノ
病風笑ノ間縁ある内ゆえと云風病息病あるいは右の脈
内を息病ハ云陽ハ少大腸と法うさとる風病ハ陰ノ脈
法ゆえ云眼心甲

一

浮結る 安間云下焦ノ虚熱ノ脾胃虚熱ノ間合ゆえ
ゆえ云前病也と少大虚熱腎痿腎脳出テ又ハ云
結ス虚熱ノ別ニ加減ゆえ古人も合ハ下焦と補虚熱と
ゆえ也 眼心云浮結る小ハ浮結る小ハ云ハ利病
小後結ゆえ古人も下焦の脾胃ノ虚熱ハ云め

どれる馬鹿法ハ脈浮ハ小ハ遅ハ茶汁ゆ
強ゆえ下ハ原出ハ不治ハ云ハ出ハ又結ハ
熱不定結ハ前ハ後浮結ハ云ハ病虚熱
眼色ハ云

仲間判云眼ハ語ハ云脈法ハ暑
ハ云ハ云ハ虚小ハ熱ハ結ハ法ハ
ハ下焦脾胃虚ノ見方ハ安間廣智ゆえ
眼心云ゆえ

一

揺病眼心云法腎法脈血肉筋骨ハ小ハ熱ノ病
法時冷ハ知ハ熱ハ法ハ法ハ法腎ハ云
血脈血道ハ云ハ冷ハ病中ハ云ハ

安岡云搖病の根ヶ所ありめ此病後の時出
来スれ共合病に搖ト云ことハ信虛さいなんて
し病出れハ眼心語同人藥病落ホシ病あるハ虛あるも
仲岡云左右学廣シ左耳法ホシ今日眉ノ開

百問答巻第七

一 ちとん喰ハれる事 安岡云半夏ちとんの毒草人し草人食ハ
時ハ食ノ脾胃シなやむ麻喰時ハ半ホシ毒おゝる喰
時ハ大藥シ五臓六腑シ燒ケあと肝上ち出せり
あるたちとし俗しけ居ハ古人ハ大毒ホシあと則
治ス毒と消スホシと合ちるハ空毒の加減ノ事心云半夏

ちとんハ馬毒草人名毒食あるを出ハる所腑ハ法脉
たこ藥ノちとんかうちるあるちとも
りハ同前なりとハ左の法ノ法ノ同ノ百民初心学
ホシ多ちとく 安岡甲 仲岡判云左右と

一 性毒あるて藥ノ氣ホシ是ハ眼力多ちて毒食ちとも
法病たるちとちとちとりも重ハ藥ノ法ハ元ハ通藥と
名付ハ時云学ハ宝書に治ちと古人も注せり
猫毒 鶏毒 鼠毒 喰ちるの 眼心云元ホハ名
出五岡出此五岡脾胃ハちひとりてちもかるゆ三毒
喰ちハ名毒人と毒人ノ加減ノ但ハ門鶏毒ハ下焦熱

一毒とされ、法のおもあるゆえにて海藻を合する事、安
玉云は、蠱毒、蠱毒、鶏蠱、脾胃あるゆえ、玉出ん
猫蠱、癖あるゆえ、脾とゆえ、玉出ん、蠱、出ん、
ゆえにて、毒、ゆえ、氣蠱、ゆえ、玉、ゆえ、 仲圓判

安玉甲

一 あらひ、答、ゆえ、安玉云は、草、天然、の毒、ゆえ、
五臓、六腑、毒性、治、治、ゆえ、治、ゆえ、
治法、心肝、ゆえ、ゆえ、ゆえ、消、ゆえ、肝、ゆえ、
ゆえ、ゆえ、ゆえ、ゆえ、毒、ゆえ、肝の味、して、則、治別、ゆえ、細、
ゆえ、ゆえ、法の、毒、ゆえ、不、用、ゆえ、の、毒性、故、

我、ゆえ、ゆえ、ゆえ、不、ゆえ、 眼心云、たらひと、
ゆえ、法、ゆえ、肝の味、ゆえ、ゆえ、ゆえ、ゆえ、毒、
ゆえ、肝、ゆえ、味、ゆえ、たらひ、ゆえ、ゆえ、ゆえ、
らひも、馬、ゆえ、毒、ゆえ、ゆえ、ゆえ、ゆえ、
ゆえて、法、ゆえ、ゆえ、ゆえ、ゆえ、ゆえ、ゆえ、 仲圓云、たらひの、毒性、ゆえ、
ゆえ、ゆえ、ゆえ、ゆえ、ゆえ、ゆえ、ゆえ、ゆえ、ゆえ、ゆえ、ゆえ、ゆえ、ゆえ、

一 百問答巻第八

則、眼、眼心は、病、早、肝、虚、腑、虚、邪風、邪、
邪水、気、ホ、ゆえ、ゆえ、ゆえ、ゆえ、ゆえ、ゆえ、ゆえ、ゆえ、ゆえ、ゆえ、ゆえ、ゆえ、
ゆえ、ゆえ、動、ゆえ、ゆえ、ゆえ、ゆえ、ゆえ、ゆえ、ゆえ、ゆえ、ゆえ、ゆえ、ゆえ、

肝の補薬とする事はかの別録に安玉云則寒ハ
安牙十七あハ流虚の用に論又　安驥五十三に邪病し中ル
肝にして其ハ邪病流腸にして腸さたらずして
邪病流腸又清涼元は邪病下集ハ下ハ流腸肝脾
ハ下ハ流腸の筋の自由なる云は病脾胃に入る時は
時ありて腸ハ流れ筋の自由あるとハ其の虚ハ
ひこハ流る病所の関ハ流れ筋ハ腸ハ流る病
ハ其腸ハ流れ筋ハ腸ハ流る病のとして時病身の虚ハ
其の自由なる清ハ流れて筋ハ流れ肝ハ流れ
腸流腸流腸邪風邪水行ハ流れ腸ハ流れ

一

其人は邪筋ハ流れ自の虚ハ流れ腸ハ流れ邪ハ
腸ハ邪ハ先立て流れ又腸ハ腸ハ邪ハ八九腸ハ俞ハ
邪ハ補薬して流れ流腸流腸ハ病ハ流れ
ハ邪ハ邪ハ合薬ハ流れ　安図甲仲図参
則冷　安図云ハ則寒ハ邪病ハ流れ病ハ
流れ則冷と名付邪薬ハ薬ハ別流別寒ハ薬ハ
寒ハ薬ハ則冷ハ図薬ハ別流別寒ハ薬ハ
邪ハ薬ハ又流れ眼心云則寒別冷ハ古薬ハ二病ハ論
ハ寒ハ寒ハ安牙ハ別冷ハ寒ハ則冷ハ寒ハ出ル
又云別寒ハ筋ハ論ハ別冷ハ邪虚の関ハ論ハ薬ハ

同前ことゝ心ゝ所汁別宜い湯ヲ先立て飲し別冷は
車前子ヲ煎ジ湯ヲ

仲岡判云安驥第三、腎虚
の内ニ陰毛扁舟虚ノ腎膀胱虚冷ニ
く此ハ病ヲ云ことゝ別冷と論ス中湯と則宜と云大
湯ヲ牙関と云ハ又右判ハ何けも遠ナリ林和も遠
と云ハ毛ハ同前ハ病落ことゝ云車前子と煎ジ湯則宜ハ
虚湯如ことゝて湯と用ハ煎ハ別冷ハ食ス別宜ハ湯ニ
ちゝ用て宜食也

安岡甲

一

上實眼心云毛ハ下冷ノ腎膀胱枯下焦ノ熱氣上腎ハ
上熱し早麦腎膀胱虚ノ上実ことゝ云安岡云上實ハ云所

し熱ハ又云陰膜又下焦虚ありとゝ肝ハ書ハれハ病ハ
仲岡判云相方ハ腎膀胱虚ハ腎膀胱虚ハ成ことゝもこと
又肝ハ熱ハ上実もこと又云心血涸ハことゝ血ハ虚ハ
つと上実例ハ又尚ノ折節ノ折ことゝ折ことゝ血熱ノ内成し
事もあり又大熱のことゝ治する小腹ハ治ことゝ小ハけく
して忘ハ治もこと多ありて成し事もこと陰ノ冷病ノ
治ことゝ時ハ別汁ことゝ内ハ煎ハ上実することもこと
ことゝハ腎膀胱虚ノ上実ことゝ内ハ赤茯苓ことゝ煎ハ下焦
孔ハ腎通血ハ涸ことゝ肝ハ熱ハ小是ノ成ことゝ
膀胱ノ内ハ上ことゝ肝ハ熱ハ小是ノ成ことゝ

とゝんてそう寒あり又心の血海〳〵逃て上実する上六
脉の血筋うこき息脉急〳〵打ハ打ハ脉ニ〳〵数化ハ
縄りて上実なるハ芎藭地黄丸
めまて上実ハ二ケ所ニまりしるゝ
百尚巻巻末九

一 喘按眼心云内某痰飲ハ射症口ハ強ハ丸の内か
ハ付某ハ或ハ強沈或ハ松脂ハ丸ハのらハ付某
ハ例ハ右同ハ 安田云肩身ハ元ハ有ハ
貞某の内某ハ付某ハ沈肉のまゝいるとゝ
症の口中そこれ加減だハ口傳ハ痰中口の腫

ハ一ハ腫いゝの症ハ口のいるハ
ハ腫ハ悪血ハ腫ハ
ハ腫ハ又痛ハ
ハ腫ハ針
ハ悪血ハ某法を
ハ 仲岡判 安岡甲

一 ハ安田云是ハ内科ハ
刻ハ光の一療ハ別ハ加減
眼心云元症ハ膀胱肩月髄ハ痛ハ内某
先立て療某ハ或ハ肩症元ハ邪

病ノ膀胱骨月随ニ不通カルヿヲ決英ノ一療ト先ヅ
て治スベシ先ヅ安驥集五十二漢讀云私病も療ス
ベシて減ずれハ外病ニ同ノ骨随ニ入ル時ハ沉香
湯ヲ以治せよと也　仲岡判云服心甲

一
水際ノ瘡眼心云ヒ血ノ血虚ヘ云ヒ骨血或ハ古血或ハ
枯血ヲ以ヲ久ク用て効し故ニ門外療ニ用たる温ニ用ル先ヅ
て治し依しかりと也　安玉云ヒ血の瘡ニ多
とあり際ハ血熱ハ小治スルヿ多シ　也枯血骨血古
血ヲ初血熱治するヿ多シ　仲岡判云惣ノ際ノ瘡ニ不限決ニ也ハ皮瘡ヲ雲
虚瘡ヘ云ヒ古瘡ヲ云ヒ血ノ古虚ノ瘡ハ熱瘡熱膀ヲ
つ出ス也水際ノ瘡ニ用ルヿ也ハ血熱治りると知て
又瘡熱ハ胡ノすくわて粉とひくヿと云人ヲ也

一
間瘧安岡云すハ腎ノ虚熱ヘ右腎ノ決ニ成て右腎
しるうハ流すハ出間ハ下ニ間ハ云ヒ瘧ヲ成ルヿ
ひ人ヲ成針灸ノ瘡治ヲ成ルヿ上我ハ不心ハ只
腎ノ虚ヒすハとこの治し他事　服心云間瘧ハ
ヲ膀胱の虚熱ノ血虚ヘ云ヒ　安驥ハ八ハ血病ニ
倫ス諸ノ血病ハ多ハ中膀胱ニ成ル　ハ骨ハ
假令下膀ノ病ハ間ハ膀胱通膀胱の虚熱ヘ云ヒ

ケ兒血病ノ 仲圓判云血病もケ兒五臓伝のてもの邪
論ようて心ノ血脈行ようてもようへて之迎ノ注あるべく
書わけをこ隆然病の根ケ 安圓甲

一百問答巻七第十

一癲筋眼心云安瘧巻ノ五十ごもくの血ヒあるノ之鼻血とも
もくの脈りの血鼻て臓ニ加ようあしくもくの癲筋ハ血病
ふれい強い筋病ノ偏ス安圓云 癲筋ハ中風ヒケ病ノ偏云
則中風も心鼻ハ者血病ハ少鼻血ヒ中風也癲筋ハ鼻
血ノ有ノもくの迎 仲圓判云 有人の偏低ノ癲筋ニ病ヒ
第一ニ血破ノ臓ようヒて鼻のてんさんを名付第二ニ心

血とのつゝ鼻ハ心鼻ノ癲筋と名付中風ようく筋流
てくひりもくるハ邪風のてんさんと名付かりゆ邪
風のてんさんと中風ハ筋ハ同ノ邪
鼻ノてんさんハ紫種ニて治し
もくヒ之と加茶ノ治ノ

一氣病安圓云ケす血圓ニて多時尾の下ハのようすもの
ノ鼻の先ヒニテ下ようの時治スハすもノ如ようの時圓ず
白ひくくもくの出ハいくもくの鼻ハ治法も依ようすの
と先ヒ脾胃と冷ス是ハ腎臓腰尾ノ脾胃熱ノ時ハ病
と結服ハ云ようれハ氣病ノあもくの偏ヒとくもくの

て大延云氣病にて夜とあるもしること能はず飲食の
間に夜出ることは大腸胃腑に入間入時は夜不出夜間裏
給すれはひろうと云こんあるくに人こゝろ病腑を
少毒ことくしたけ間べうろ夜出と則時のあるを胃腑お
さあ薬べてを合ふし安藻集佐庶の論にえにくゝ
先立て合し　仲圓云左右ともに氣病は寸口間に
入こりていることろてうの例又玄夜ゆいくこすれはうへうろ
てあるしるもあるいう食を西尾鄭の二れ下格にうりてを
短病をしあんたニッ不弁
一下下熱眼心云膀胱の虚熱なり然るに如何間合の
なるり逆に腎腑ゆもるを西心とうけを膀胱の
虚熱ニ成ふ例治ス　安圓云此病ハ右間腑
とんこうろを能ハ合茶を右人も安膀胱の虚熱加減
んこを只腎茶を腑ものの加減を又玄膀胱の熱ものの
ゆしとうれものの悪熱法ことにうて下焦熱ある
仲圓判云左右人もうれものの加減をて間と成スれ和
茶を也　安圓甲

百問答巻第十一

一咽喉安西云和安ノ漢少心小腸の熱ハ少あし上ら
下焦うひあり一けはい玄胃腑と合表ッ一心上ッ咽喉保ッる

また眼論云此病ハもとハ心肝の虚を見[?]して[?]しき
然ハ五臓腑を破るると害あるといへとも此病ハ多しみな五臓
五臓六腑へ出入するやまひなれハ例之ハ草[?]心肝ノ虚を
暑のさかひとみえとおもてとるへし又出ハ合病とミへ
さり
仲景判云右ハ吐血ハ心肝悪熱シ盛也出ハ虚也とも
ひ虚してても又五臓虚出ても[?]きあけて心肝を痛熱と出
またハ熱ハあるもなる[?]虚之の虚の脹満也古人も虚の満の
内に[?]とのまて

一 吐血眼心云心ノ大熱ハシテ下焦の虚満之心ノ大熱ハシテ下焦虚シ
また下焦ノ虚を云ハ心ノ大熱ありてまた満し血道やふれ胸に[?]

こゝろて病し[?]ハ吐血ハ七日を灸し心ノ[?]葉[?]治ス大病ニ
又見ゆるし安虚云血病ハ古心の病からおこる[?]付病ニ
加減虚を熱ハ二ツありてもとより大熱病ニ限ることハ不見
仲景判云此病出テ治スルにハ首ある[?]心ノ麻痛ト云
如[?]の虚ニ中虚を合病ハ見ゆ[?]薬種治療を合薬し
使[?]ニハもて付使[?]ハまさに[?]せさるにける吐血ニ成ル薬
と則あるハ[?]ハ則時ニ治スるを薬[?]なる師ハ皇ニ問 皇こたへや
うけ[?]をふんし[?]安[?]五十九[?]血ノ治ニ見ゆ[?]もま病
心肝ノ熱ハ病ミ血中風合病之此病ニ[?]相[?]のさに[?]古
人モ不[?]

一 血痢 安国云是ハ折節也下焦ヒあつく折ふしふかくする悪
血あつまりてなんの御しふてくする也大腸まあつく是ハ悪血
きまりてるにて大概之腸腑胴大概を仏はこれ成し薬を
これとくむ分加減テし折節の薬しとえ也と悪血とおもを
内あつ之眼心云ハ血痢ニ病あつかふこの血くま
つか成しもまて又腹中ニ瘀生常ニもつけ於も血くてるもまて
乞ハ血ッ又之あり折節ハへろしてすて下焦ニおいて痛のたこ
にあまえてれとくにそもあり一瘀にさこ仏りも
仲国判云血痢ハ心ノ血道乱破て脾胃ニおいて血心肝の気
ハ吐血ッ吾モて脾胃ぐこれハ血痢と云或ハ折多或ハ腹中ノ瘀

乞ホハ本学ッ血痢とみる大学ハ瘀ッハかさと見是ッ治ス
折節ハこれ薬ヲ以て治しあへ吾学ッて論之

百問答巻第十二

一 古血 眼心云是ハ胸と折久しこもりする血之ホ然治さ古
血ト思しける事ツてたる也心上或ハ食と成時くこもりて口よ
りおほてつまもかまえ又問ハ然のもくホメ吐出もまて乞前の
瘀悩又寒も不て長命ホメ大概也
安国云古血ヲ乞折多之ハ折多様ホメ出れハかさ治りて或ハ
けいらんかとりて口より出れ可折節滞ホメ出れハ食ヲ多出ん血
さく人ハすこッ多のしるをくにて又は以て出れ乞ハ瘀薬ニ生也

時に古切也　仲間判云古人〻語ッたゝ〻せて安間甲

一息陽安云是い肺ノ虚損ニ成いたるゝもせ法ハく
脈少金ノ不見肺と間に虚とおさのひとれと別に加減る
〻眼心云息陽ハ元古来ヨリ息病病人ハ息ハ肺に成
たるあるれい肺病と云元也陽経邪病ハ成ても又七
傷八邪ハ人ハ病さるうて成し後ハ元ハ病人ハ姑
ようようさもさ〻〻煩病ハ元ハ法ハるに不ハ也
仲間判云息病ハ古人肺病ハ元ハ偏〻又云邪病ハ
動ハれいさ多ハ〻〻安間獲集ハ動ハれ脈ハ偏〻
法脈いたくしても狀況ハ成ハ肺ハ元ハ成ハ

一法もいされ中ハ元ハ元ハて息法脈ハ動ハ多ハ年老人息
病ハ一脈少ハ元と法せよ

一雲無眼心云ハ元中風の血脈ハ是ハ五ハ多ハ中風
腹中ハ元ハ筋骨髓脳満ハ法ハるよハ病と脈ハ元ハ脈
百代古人の論ハ法ハる病ハ元ハ病ハ
中風の脈ハ病ハ元ハ病ハ是病付ハ大切
いたんや脈ハ元ハ百学ハ法ハ不ハ及
安間云元ハ病ハ元ハ法ハ元ハ腎腎
て筋骨ハ元ハ法ハ元ハ髓脳ハ元ハ
病ハ元ハ元ハ不法甲ハ脈ハ元ハ眼心ハ云元ハ則

の薬をけつるに薬法なしらるとあはせ心熱をとひら
ゑるものあるにこれを小便ならしめて
仲圓判云則是れ薬ハ牙関へ　安圓甲

百問答巻第十三

一　大風安圓云大風病の人ハ熱ハ多お苦子冷くものとなる故
病ッ又因病の人も有るし大ハ苦子ッ多く海ト云ハ心肝ニ入血
脈ッ多くなる故ッ苦子ッ多く海ッ多く苦子ッ多く海ッ多く
こそなりなり
眼仙云大風ハ天然邪風邪毒
血ッ熱ッ多ッ故ッ病ッ多く根本ッ風ッ多ッ故ッ
して治し息薬ハ常ハ多ッ苦子ッ多く海ッ多く

但し熱ッ多く肉ッ多くて又霜もとく熱ッ多く死たしらぬ内
とする〜病所ッ多くなりて時のうちハ治しッ多く熱ッ多く
れとしてなりて性も毒〜ッ多く死たくなる内ッ多くなる
〜病所ッ多くなる故ッ多く内ッ多くなる
たる熱ッ多く申し治ッ多くなる

一　陽風眼心云陽風病なりとハ諸膳産熱ッ多くなる
ッ多く人汗ッ多く是ハ肺大腸乃産熱ッ多く治ッ多く息ッ多くなる時ハ
息薬ッ多く加減ッ多くなる。仙他安圓云陽風病ッ多くなりとハ
是息病ッ多くなる人の療薬ハ多く苦子息病ッ多くなる
治し　仲圓判云左右ッ多く熱ッ多く秋中病人肺

大腸虚滑ニ成して別ニ付附いるゝ人ハ有の皮治をノ
息急ありて又息病あり此病生ずるいらことゝ汗以を
あるべきなり　されは息病ハ肺ニして表面より肺大腸
の虚滑ニ成し病ら急ニして去られらくしこれ故ニ一切ノ薬
も息病相なりあるハ肺薬ニして味あるにやうへ肺大腸ハ
虚滑より生するハ急薬ニ味治らして治食つて有り則息
薬ニ先んじて治すへし

一　乱血安血云宅暑とより心治るも又小腸者し　一天
然なる心より生じる者なり七傷ハ邪気より治りの心悸
血し平素心の治薬ニあるへ耳ニ息薬ニ有療治ニハ起同ニ

灸もすべし別ありし
眼心云悸血ハ名虚ニして肖ヘ是ハ
安驥集巻之第十七ニ云虚滑ニして是なりとしかされハ諸病ただ
虚治生も是ハ成し　仲固判云桐方ただ非ヘ諸病
ただ虚滑ありとハ古人の虚労の内ニ論し心の血乱するニハ心
悸としりて付悸血下云ハ心ノ血ニ大然七傷ハ邪といふてあ
るひハ娠病の滑気未合病も成し加るなるてある病
養ありて心乃血ニいんひやし合し命りたる処へ
百問答巻之第十四

一　腸逆眼心云是ハ或いこくたとあるくらいの或ハ立てなし急々九
るニ餓ニせもるニ腸ひきならへ故死スニ風の中風など病是へ安

圓云物くつる中風ばかりをくるしむる息
はなり脚大腸にいたむ依しるの物をうすかしは大腸
一腎及早麦大腸のあいだ腎とは息のあとを指
仲圓判云物くつるを云いたる大腸の根本の馬鹿ひるく
又腎性ちくるをとく立とをさしるるとは井ふのらうを
と飲ばたいちら志ひろ或いは腸とあるくことを或ふ
ひ上腎と物の行り合をるを腎性とうんを
ひるるとうの

一

則中風 安圓云中風連こりをるを俄にをこれ依腎に
後をうえをこ大逆し秘英ふとをはをとをいるを甲

一

しいたるをうの治をるをもを腎に茶ば息命丹ッ用これ腎疑
眼心云四病中風後に中風の中風の後骨後をるもを又篇
所の篇を後をるもをこを中風息後をると則中風と名
付古人を中風後ふ治れるをあるとをいり
仲圓判云則中風は大逆を失ふ則中風と
書をりけるを判をるにをて安藻集を則は二字と
うをこを中風息病脉おもも出ふ此病の本茶とを治を
後病ふ則中風とをいふ療茶をを眼心甲
骨髓眼心云是腎は虛後は病ッ信又云生馬をを骨
ひるをを志れを虛後をるを志能を然後へ

安図云ひ病腎ノ中風ハ手足麻ハれス時心に泡ふき鼻汚
ふき又ひ病うけふく中風の脈必生けつまり腎ノ虚
ふる故ニ腎虚虚ニ色黑もあり又虚熱ノ人あり
また早ク発始ハ中風ハ
仲圓判云ハ安東倫のふく中風ハ病ノ脈しひ病生る
ふり中風ハ腎ノ病ハ行刑時ノ然と云ハ懐馬
麒麟 鬼ハ龍ハ病ハ有ハ東ハに出て出ル骨
ひるくこと性うすくまる中風ハ腎ノ病ハ
の人食ノ多ハ肉ハ厳ハふり病て人性泡す
とハ腎中風ハ虚ハて生るのまれ

ハとらまこと性不出ハ病身ハ泡とあり紀ハ主又
骨ハふくふくまくまれふくひ虚病泡ハ骨行俄
あり病ハ泡ノ治スルハ
とこたりとハ五臓ヨリハ治スルハ
安図語大方注ノ

一

猛毒法 安図云腎ノ虚熱ハ又云ひ虚ハ猛ハ(て皮肉
ふくるく依ノ中風腎ハ神スル茶ノ有ハ外ふりハ瘡脂
あの瘡治ハ如 根心云ハれいハ当ハ腎虚ハ
又猛道ハ人おふれハ腎虚スルふり大猛ハ生ふる
法ハおふさ法ハにふて猛熱あり用て泡ハ泡ハ行

とも見えさる也

仲景判云古人も癆病ハ七ケの内
に論し他癆病ハ虚損あまりて癆瘵となる
して然しも是癆病は七ケの内に得る積脉弦細に論も是虚に
して此病生ハ癆瘵の上のはも立てゝらこしそいうもあれとも
くりわりきるも見えて又以ん征つらりありハ腫なるホいへきされ
やしたくもふし又胃道の血筋浮え見え所へ小なるを
ハ合し又食いり積合不斉癆病胃にいきて虚に成しハ
志よくホもしらあし時ニと分別なしハさるて治療不可
時女人ならは時病不明之

百問答巻之第十五

一 失血眼心ハ云心ノ血袋これを血臓にあるハ剤時ハ命を失ス
見心ノ虚勢ホ又大腸心ノ又無血ことしり成安国云失血ハ
見心ノ癆え陰経見えハ大腸心へつまり湯ミ又時血命をうしなう
又んともて早見えい見えんとノ心ならいかりきに大ミ以時病ミ
仲固判云時病血病八陰の内に論し其字ハ心失血病也
見心ハ血ノて心をうしなふといふん見えとて甚也上にて
やく又書之時病は見心ノ病見え時血也ハのてそれてせむ
なれ陰ハ陰経に見ゆるゝ為滋膝にちりしら又上生
見るハ治又血しとまり秘するくハ性のくありてそ胸又え
くりちりけるゝ治すり仍し積の時なるのこゝ出義

耳とも　あてこすかふのあるに治ゝらひえるの
ちゝ治するのしるしあり

一　五淋病　安圓云　黄石血膏芎藭膀胱熱　陰茎
茯苓乃至病に膀胱熱小腸にいたる成しこれもそ
とゝ成さんとに治して腎膀胱と補小腸とこゝろあ
るべし通ずれ　癃閉　茯苓　白術　服心甲　石淋
冷淋と云ふ　海金砂　乾地黄　邪門熱　宜　成
ゝ冷淋　又云熱淋　合　成ゝ陽淋と名付
又云大暑日　とる成ゝ熱淋と論
仲圓判云五淋病に石膀胱の熱に安驥中五淋病

の論細あるに　但　私　これ　の合
茯加減　それ　ひえ　云加　汁　膀胱熱　安圓甲

一　石淋　芎淋　服心云　石淋と云ふ　飲　合　形と　合膀胱の
ゝ入ゆゝの道　毒　芎と云ふ　役
とる　腎　邪　膀胱　茯苓　ふ　満　出
とゝ　脳淋　名付　安圓云　石淋　形膀胱
成て　加　例　五淋　の淋病　長病　熱
つ　けいらん　茯　毒　ゝ　病
石淋　名付　仲圓判云　石淋　石　熱　加
とゝ芎淋の論　服心甲

一 血淋 安図云膀胱の熱流注股中に悪瘡出て破れ膿
かるゆへ内系瘡の部系と加減す 眼心云血淋は
腎心の血下焦に落ちるゆへ云腎の血筋血袋つまりて腐
水流しかたて出るもの腎に不てすと 仲圓判云腎
し血袋破るゆへ腎或は川骨或は大根の毒に加減す
ルハ血袋破るゆへ是腎に根ス瘡は癰乃ものゆ
えの論 眼心甲

一 百問答巻第十六

合病眼心云古人の病ごとめとられ治病ごとてまいま
されと不系陰陽ハ病百病と云ハ合病

一 お腹のすとに陽病あれとも病陽ゆへ先病ゆへ
病も陽病ゆへ系ゆへ腹ゆ先とて
と治せよとあり早き病治ゆ如病とも
安図云とゆへ病ゆへ治ゆ病の經病
おゆ毒病ゆ熱病と陽病ゆ古人も不論
仲圓判云 安図甲

一 鼻血安図云ハ肺虚熱ゆ熱に付熱の行ゆて血流
かゆゆ肺虚熱ゆ治ス上実とゆ故ゆ別治ス 眼心云
鼻血ゆ陽先ゆ上実流 下焦虚ゆ
もゆ心熱 血ゆ上腹ゆ久打所時の毒

暑にかこれをとるもまたもちろん年老人にはさてもまた

仲圓判云古来より鼻血に限り合薬の加減を第一上

実第二心の血第三打身第四新病元の此四名をもって

いへども古人も名は鼻血にこれ〳〵の薬は第種血

病のりうと治する薬あるまたまた加薬合し方匠し上実は下

集て元とこれ心血は古人より新病はいうしらの上下

とりて元ッさんせる打身は息脉ッ当てこれをもたれ方

同じこと

一

凡そ眼心云病相相〳〵うこと当ては時は病れ

また凡そ不てこれ秋と春との季移変去こ月に

こと多りうる病へ安圓云方初去若秋に元当

相〳〵いへ安薗集に云附の季うたうこれと当ても

さに二十年元ッ人くる病に初る違もまいしあいさ

取もまた元おり方けこと我と治せて古人をもて方

ようなり　仲圓判云付老八十ッいまあまやま

ひるまるまし　安圓甲一

一

くひ〳〵　安圓云元心肺の虚小腸新〳〵虚熱ふさ

り食服中〳〵ふりおさめて偏〳〵中薬心胃肺ッ補と

治し眼仏云かくは元治腎虚〳〵扁鵲胃と付方

息後腎〳〵年老人息病後と人〳〵たり

仲圓判云安藻第五十二かくい気心腎虛にして安れいき病少腎さうなるは病針灸シ安
云生るゝ事さう例て治するなり　そるに陽ろう病へ大
ゆ十嚴とう　病交ゆ例へ云安藻第九十生る
病あるい息労と名付　急るの時くひつ〳〵息なるう
くゝ死と云て有る悲病非

百問答巻第十七

一　嬉病眼心云腎虛心の血脉ありかゝゆゑ腎
とゝすといへ某性の若腎と補心血ありも加
減たるう　安圓云嬉病い気嬉犯腦の切病ろう
されい生るゝ時いかんゝゝゝゝ心腎おろている
なるゝ死る時いめくゝ心脉いる　仲圓判云ひ
ゝいゝあゝ生ゝ　強つきひきゝるれれば
意脉念化ゝるゝ事けゝ嬉法を以て心脉を
あゝもゝ腎虛心乱ゆゝれゝ安驥集
生るゝ腎冷少嬉法ゝる依ゝ依病痛ゝ時ゝと
知ゝゝ宝ゝゝゝゝゝ気ゝ右腎九腎の水甲しゝる
書之相ゝ安中ゝ実言ゝ一ゝゝ川ゝ二ゝ不見ゝ
一　片茂安圓云気ゝ肝虛之ゝれゝ肝ゝゝゝ膳ゝ右ゝ右通
肝膳ゝ虛滋ゆゝ病ゝ筋ゝ筋法ゝ大筋病ゝ気ゝ片茂

六肝虚なりとして膽はやう虚に成
し肝平ニ膽の虚滅なるは右の如く成
ばなり合ずなるさ事有一依て右ばり
ゆるり灸時は膽灸針とあるべ茅ゝは　補膽湯
男女共の筋ばりくひゆるるに肝灸肝針治肝散
て治し　眼心云片茂い筋病のるるさ如く肝膽虚
陽少一術ニ肝虚なれい膽も同しく筋病ゝさ
一術の病なる時は右ゝるもあり早く筋病
少虚冷ニ筋病い虚ニ寒を病へ　仲圓判云右方同さ
ゆとりて眼心甲之

一

嬉戯眼心云えいりんゝるとゝ又る大嬉ゆゝ立ゝ忘
何指ゝて嬉戯虚ニ眠ゝ合ゝるゝ病ゝよいし
え云化事　安圓云嬉戯と云い嬉戯依膽ゝ脇ゝ
て胃膽脇や重則時ゝ死えッ嬉戯と名付加る事
ゝ癲系ゝ　仲圓判云嬉戯と云ニ大ゝ大嬉ゝる嬉
とゝるゝるゝ病ゝ又則時ゝ死ゝ大嬉ゝる孫ニ
ゝ嬉戯時ゝ他ゝさのゝれい胃脇膽脇ゝ重心
いゝ病ゝ又ゝ重ゝ不ゝ死えい古ゝの云嬉大嬉
重ゝゝ又ゝ性胃ゝひゝる嬉むゝひゝるゝひゝの
ゝれゝ下ゝ胃ゝ不ゝ又ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ則

死気と絶て死と云ふ又大の治のことく必と熱熱しとか
ゝく眼心甲

一 癲癇中れ脾ハ　安図云ふ心い胃の虚熱シメかゝ出ものと
内に悪血瘀と云つて初れ早き人胃の虚熱シ眼心云ふや
の中の脾ハ気ハ下焦熱ハ小ク血瘀と云ふ合病
仲図判云ふ心胃れ虚熱シ血道ハ行きうるゝすゝ生んもの
又常の瘀脾物を治出れもあり是ハ合系瘀治病
の論にあるつまるなり

百問答巻第十八

一 下血眼心云下焦ノ虚ニ肖血不足ゝ流れ脾胃ノ
いるも時熱ニ状安図云下血ハ血病ハ下焦ノ虚ハ血とう
されるなり　仲図判云眼心甲

一 脱肛　安図云下焦ノ虚熱ニ脾脱虚シかの肉ハ
くの早き下焦ノ虚流ハかりなるとてせ
死と英ノ云門ノ英ニ肖補散とゝ刑治眼心云此病血
病ハ心胃れ虚也けるくりろこゝの虚熱ニ又云脾
胃虚シけ肉出れもは是も心の血脱脾胃ニ入虚ニ
仲図判云脱肛ハ法腸ノ虚流シメ下焦ニ冷シメ冷しさ
ないと暑ハ中ニ下血ハ肉シとさむ法腸虚シメ下焦ニ
冷と成し双方同あゝ

一 吐血眼心云肺の虚へ大腸を基不定首の内虚に内
経にいはく生年長肺の虚漏へ 安国云吐血い
乾肺の虚没不内経長病へ長病へ熱に病内経熱
一月或い二月三月内出れ 仲国判 安国甲
久頻て乾出て肉経長漏へかりて肺の形内か
出い虚冷寒とりて病多 仲国判 安国甲

一 足中風 安国云乾中風筋病合病とみて中
風い病多皮肉筋骨たに不定 脉浮弦 治 約
志ひ出い下焦虚ノ筋病の脉出ず足の自出ず
志ひ出い又筋病ならば出中風へ眼心云足中風ハて

中風ノ病へ中風筋ニ入て筋病とみされば
筋病の脉中風の脉い右人の乾出と云 分一右手より
足中風と名付 仲国判 眼心甲

百問答巻第十れ

一 腎破眼心云此病乾腎の虚漏不定病へ治法脾胃
虚国ノ病出れ 仲国判 安国云
乾腎の病一病へ乾いは右病出て脾胃虚ならば
ならそうるいいん内虚法さうハ乾右腎月の内ノ
左腎ノ病ならば 安国甲
以内ノ内ノ病ハ脾胃ノ出れ此道法見

腎虚の人に依て生ずる所の症なり故に齒
患ふるものもまた腎虚なり腎も又虚弱なる
つて也　仲圓判云元腎病ある人は齒
ぐきとんへは病ひ年老衰弱し成しされいるいと性鬼毒腎
とんは病もなくして老さらに腎虚元ゆる例へ
咽ぐるとき動揺して落るもの根多下皆腎の水
ひきの病ひしたる虫のこゝいまりとんてうり

一

霍亂　安圓云元根熱大暑日でてこされ皮肉筋骨
なのとりてふ五臓云腸は大腸と成し元い腹中と
あてめかとひやを加減を眼心云霍亂いたる極熱

急にてんすは病ひ限りなる也日熱強く中痛胸中に熱と
大息〜欬息血脉をに大熱〜然るときこれと同
とあてめかとひやを〜療治は皮肉は腸胃腹中に
入らもなりら人命トッテせん　仲圓判云くるく
らんひにくの熱ゝ腸腸大宝とされい交易日は生に
祈まる若い者腹中冷又冬の方を日は腹中冷
温熱大大実大は皮肉の外の年時日熱物の者
今にいつて不ってきされい安藤養生記霍亂ッ論
藤林小云は病急物ッ雷のこゝとこゝ経少悪
日は必陰熱の手来てけ火外のときこゝて成し又雷

と名付霍乱熱いきを暑二の義也　安図甲

一　大霍乱眼心云そも極熱ノ時腹中を冷し外ノ熱
冷け給こけきを入扁鵲ノ月中ノもちをこひ給ふ
つを飲そ右れ海師の判しなふ法とそ今此海を也
安図云是を暑のこしひ給ふ胃ノいろ中風を如し又
合毒しるくこそいるやや　仲図判云眼心甲

百問答巻第二十

一　吐病　安図云脾胃大腸虛ノ病しを熱ハ脾胃大
腸虛如ノ為ノ食不れ食るものあさ冷ものを則吐を也
ぬのお膳ノ冷つを出れハ大腸胃腑ノ虛ノ又食るものあさや
うあ吐ハ脾乃虛也眼心云吐病ハ切要ノ病ハけもし
大腸胃腑ノ法食るの別をス　仲図判云は要けし
出れるの脾胃大腸の虛ノ為也　安図甲

一　瀉痢　眼心云是ハ熱痛ノ法腎ノ熱ノ法又云腎虛泄
ふるつて以痛法ノ成しるあるハ腎病たつて云也　安図云
そハ下焦ノ虛ノ膀胱の虛法ノ年ハ腎ノ逆スるれて
熱痛法ノ同ノ成ノ膀胱もあり是ハ肝の虛熱ノ以痛
と成る年ハ腎月膀胱ノ病也　仲図判云は病多志
ふ法るを先ノ法ざしめとるを冷一以痛法ノ前のう
ちうを破うを法ノ出もを冷二を冷四病を

瓜とはしめたる也又耳此内より出する事もあり当時ニ
背腨腰虚ニ似痛と成後ハ首此内より汁出れも是有
人斥字ニテ称之

一 下風 安国云下風ハ下焦ノ虚也此虚ニ因テ出テ寸白出開ニ入ル
故ニ其虚ヘよりて或ハ其人ニ表ニ汗ニ出テ是ニ開ヘ入之
眼心云早晨寸白也是又あけされハ下焦の虚也
仲国判云下風ハ元風なれハ虚之陰起虚ニシテ寸病出る
例之文熱ヘ病ホシテ下風とかも是ニ只ハ元寸白ヘ温気出ハ又
寒暑ニ出早晨寸白ホシテ眼心甲

一 頭風 眼心云諸ノ邪風肝ニ滅ニ成しるし證ハ寸病眼力悩
諸病元ニ起ツあやもしハ間熱ニ成し肝虚故ニよつて眼勢力
諸ニ 安国云元邪風之陰陽此風ハ背月ニ滅し虚風滅ニ
諸臓ノ熱ハ次ニ上熱ヘこ此病ニ痛 仲国判云頭風ハ下焦
の虚諸臓ニ滅ニ頭ハ熱ハ清く上ヘ為し早晨背月の虚冷之
安世甲

百問答巻第二十一

一 水腫 安国云諸臓ノ虚滅之背月水ちされ亡飲食腸ニ出
さ後より是後肉ヘ入テ成し加るもの也又臓腑先ニ飲水滅也
眼心云水腫ハ元虚ニシテ気塊加病之ヲ家ハ此病諸れハ
合せさるとい又先腹より是目の内黄ニシテ古今ニ成し此相

ハ年老気塊の病相也

仲回判云 脈ハ虚滑ニシテ
心労ニ感しても又気塊ヲ作感しても又脈れ
滑之肉痩の病後又病中ニ老ヲ多もても老衰の之
証付前也

一 脈虚 眼心云 老ハ血虚ヲ感しこれか動労れ悪血崩死
しー虚と成かるゆへに作て付薬も温薬ハ生ノ主ニ又
内薬補血散ニ而治し 安西云 老ハ血虚ニ不限悪血下
てこれともあく又冷ても多く老ハ足熱ク引つけつ
も感し
仲回判云 ことハ足引つ熱ク血成る之血
枯死ヲ付病と成血虚ニ引つけつと云ハ生血成ヲ云 眼心甲

一 脈破 安西云 是室中ニ足ヲ冷ニ逢し 血虚ニシテ下
へさ血もあまさしるて脈勢枯也 治あられくなれ成と
眼心云 脈破ハ老ハ肝の虚ニシテ心労ニ之証ハ多くして血
の血かれ血虚し足ヲ又血るよりも老ハ刑病ニ不て多年
老ハ心肝ノ労虚也 仲回判云 眼心甲

百問答巻第二十二

一 脈脱 眼心云 肝ノ虚熱ニシテ足ヲ又血下熱し感し
安回云 老ハ動労ニシテ名血熱也

一 仲回判云 此病ハ肝ノ虚ニシテ脈あさき虚もつハ感し事も
老又血熱ハ四足より下之血脈此中へ入より引つけし此病と

結もすると云久打ちる右血ゟ時宜異ハれ甲しぶりてハ舊
血かゝりとに入成くもすると人(脉)

一

熱流　安岡云腎ノ虛ニ膀胱虛熱ニ流れ尾之
痛ハれもも流ゟ腎ハ大腸と結もんで他之流し時ハ脾
胃不宣強ハ脾胃ニ心ゟうけ合ハれ如減ゟ多ハ
流し時ハ腎間ゟれ熱ハ別ハ腎ハれ
加ハ不加眼心云此病ハ虛中ニ極ニすると云ハれ腎
大腸ノ虛ゟうとゟんで強ハ痛虛合ニて
皮肉ゟれ油ゟ熱も根ハ法ゟ強し
仲西判云ハ強の虛合ニあゟゟ右し強ハ熱

毛心ゟ通腎ハ又皮ニ通ゟ皮毛の根なゟ強
て腎ハ大腸と云ハとゟ

一　眼心甲

一　火病眼心云脾胃ハ大腸肝腎ハ熱ハ別時ニゟこ
ゟ痛ゟ痛ゟ痛ゟ冷ゟ冷ゟ冷ゟ
ハ大熱ハゟとゟ大病ハ関ハ大ハ冷の
とゟ口裏流て治ゟ痛ゟ痛ゟ血出
治ハ強ゟ安西云火病ハ強の熱病
の流ゟ腎ハ膀胱の名ゟ強ハ
ハ流し時ゟ強ハ腎ハ膀胱ハ
現ハ不宣ハ文ニ問強ニ不入

仲西判云火病

ハ七鶴八形ハ極深ノ〻療薬ハ発陰陽生ノ〻火ノ意ハ
深ハ血とうゝ老ハ極ノ療薬ノ略せとは人ノ病し月
ゆゑひてえうりゆゑ子小智いうんやはゆゑ不ノ治し
ゑ道ノ病ハ不てゑ道ノ〻

百問答巻第二十三

一

焦労　安岡云ハ年ハ虚深ノ成し大方鬼病の
深ハけ〻ハ虚ノ深ハけ病ハ物の例ノ眼心云大方
血病ハ深ハ虚ノ人ハ薬ハ極ハ病ハ治ハ別に
治みハ　仲岡判云ハ病人ハ虚労ト云ハ人
むらい月のあハ部不ハひハ虚ハ則時に成ハ則時に成ハ則時に成ハ又

一

病人のとゝろハ時食ハ物ハ心ハ安藤集に治ハ
ハ血道ハ病ハ成ハ病ハ成ハ返事ハ云ハ血ハ病ハ治
ハ則時に成ハ則時に成ハ虚ハ云ハ虚深ハ
心脾ハ病ハ病ハ人の云ハ生ハ
又ハ病ハ人ハ

一

腎脾　眼心云ハ心ハ腎ハ腎ハ脾ハ形ハ極ハ病ハ分て腎
腎脾ハ動ハの深ハ如し　安岡云ハ心ハ腎ノ通ハ治ハ
病ハ　ハ心通ハ病ハ腎ハ通ハ病ハ腎ハ通ハ
腎ハ又ハ病ハ通ハ腎ハ通ハ病ハ腎ハ通
治ハ也心腎ノ通ハ心脾ノ通ハ深ハ腎ノ虚深ハ時ハ

仲國云元ハ生ル不入二年三年或ハ五年
或ハ一生涯ニ一度ニ腎虚ニ成ル此病則ハ底ノ病
ニ成テ腎気ハ衰ヘ腎ハ骨ヲ主ル故ニ骨ハ弱ク折骨ハ
ヲ成ス也是ヲ骨蒸ト云ヲ時ハ打身ニ成ル
骨蒸腎ノ虚ヨリ起ル論住ス　安國甲

一
長裏安国云腎虚ノ虚ニ成ル眼
心云付病根ハ脹滿ノ時ハ強ク長裏病所腹
労シ如ク骨ヲ以ト脈ハ沈ト以ト脈ハ沈ト脈ハ沈ト脈ハ沈ト
脈ハ沈ト脈ハ沈ト脈ハ沈ト脈ハ沈ト脈ハ沈ト脈ハ沈ト
他ノ如ク　仲國判云長裏ハ窄因ヲ伺ヒ脇ノ内ニ

ひて毎ル虚病ヲ子ニ治ヲ内ヲ以テ大腹中ニ毒ハ結ヲ如シ
もヲ又子ヲ毎ヨリ出ヲ筋ニ焦ノ内ニ出ヲ毒ヲ結ヲ
病ヲ也長裏ヲ多ノ論ヲ也ヲ不限或ハ乳脹滿
ヲ如シ也又心腎虚ニ成ル論ノ脹滿攻ノ如シ
事也ヲ元温病ヲ論ノ虚病滿ヲ如シ也ヲ表
人ヲ脹也

百問答巻第二十四

一
亡血眼心云血ノ拾ヲ月ヲ云一月一度二百十七度ニ成ル也ヲ
血ヲ治ヲ時ハ大結ヲ拾ヲ月ヲ毒ヲ血ヲ
不治病ハ血ヲ出ヲ死ヲ長ト如ク也ヲ病

ホ之脈ハ針灸ノ法ニ論スト云ヘレトモ知人ナク
ル一日ニ見ヘテ見ヘ不来ゆへ云ハ也　安田云ヒ
血充ヒ血也血ノ虛ハ辛ル也虛ノ時ハ六ノ五
時ハ六時七時血ヲ失ラ云ヘレトモ死セサルノ
ヒ血ハ死スルヨリ血ヲシテ生ルヨリ先ヒ不思議也ヒ血ト
云心ノ熱ノ強ホ血強ヘ此血虛ノ中血袋ヒ云フヲ
ヒ云時ヒ云ヒ針灸ニテ　仲國判云ヒ血ハ心ノ虛熱ニ血
破也　安藻集血熱ノ中ホ強シ先生ヒ云ヨリ無
カヒ云ヒ心ヒ云ヒ生シ云ヒ云ヒ熱心ニ強ク脈シ云ヒ
ヒ血ヒ云ヒ強ク判ヒ虛熱ノ二ハ血乱ト判

一

ヒ血ノ虛ノ云ヒ云ヒ　安田甲
五觀動ノ脈ノ中ホ入ノ二脈服心云ヒ陽脈ヒ云ヒ
ヒ云ヒ此ヒ脈ホ小緩ハ者ヒ入ヒ陽ニ新ニ心ヒ張
陽ハ等ヒ脈ノ時ハ　安田云ホ入ノ二脈ハ陽ニ血
ヒ云ヒ強ハ入ハ者痛強ニ先ン緩緩虛脈ヒ痛ハ先熱
ホ故ニ故ニ脈ニ先ヒ陽脈ヒ云ヒ陽脈ヒ云ヒ
ヒ云ヒ脈ヒ云ヒ脈ヒ云ヒ先ヒ先ヒ不定ハ
仲國判云ヒ虛ハ心ヒ強ニ息脈血脈ヒ虛
脈ニ云ヒ形冷形ハ虛ヒ　いとヒ云ヒ時ヒ暑熱ヒ陽ニ
脈ヒ云ヒ動脈ハ病ヒ云ヒ長經ノ甲ニ云ヒ

[illegible]病性とうしつ[illegible]なとゝ[illegible]生病十二病[illegible]病[illegible]温熱と
根なし風息筋骨[illegible]病[illegible]治[illegible]塵根なし[illegible]
[illegible]入二脉と陽[illegible]治[illegible]

一 沉草脉安圖云筋病[illegible]塵時は
脉生[illegible]塵筋病[illegible]塵[illegible]病成[illegible]て[illegible]脉生[illegible]て塵
脉根なし服[illegible]云沉草は筋病[illegible]但[illegible]塵[illegible]脉生[illegible]と
以[illegible]病なし脉[illegible]て沉草[illegible]生[illegible]時は沉草[illegible]とう
けなし脉[illegible]治[illegible]又なし脉[illegible]沉草先[illegible]生[illegible]則は筋
病[illegible]治 仲圖判云沉草は[illegible]人筋病さ

ため[illegible]とん[illegible]とし[illegible]眼[illegible]ん[illegible]ことなりとゝ
も[illegible]塵[illegible]筋[illegible]不通[illegible]塵藻
ホ沉草も生[illegible]服心甲

百問答巻第二十五

一 骨動ノ脉眼心云[illegible]の脉[illegible]風息[illegible]出人
[illegible]力生[illegible]病[illegible]れ[illegible]いて[illegible]病[illegible]服節[illegible]
の色動ノ病藻[illegible]時は十二[illegible][illegible]又[illegible]治[illegible]病[illegible]
[illegible]病時は[illegible]針の[illegible]形骨二三[illegible]申し[illegible]
動但[illegible]藻[illegible]治中[illegible]
[illegible]馬[illegible]中[illegible]不[illegible]安圖

云寸口動ハ脈病ノ内経ノ脈ハ右風ニ沈うさ
と内経ハ病さしむ為うさと風息病ハ右脈病
ハ風息ハ右寸口動不出といふ〳〵ものかゝと風息力入てハ右
寸口動出ル早き右脈病ハ風息病ハ右寸口動之
仲圓判云寸口動ハ内経脈ハ風息病いてんとする時ハ息
陽の時ハ浮〳〵の五ケ名熱ハ息そうさそく也病外ハ
ゆてゆるゆる又ハ風陽風時ハ浮るゆるひのうさ又息ハ
ゆて脈出風病息病ハ脈沈病ハ脈沈ハ実ニ満之時
此脈出寸口動と内経脈と古来ちがひあるとハ
余病の脈病ハ脈動ノ寸口動ノ内経

一

脈ざうもう
沈ハ安圓云ニ季ハ寒ノ出之夏暑日実大ニ浮ハ沈脈
出ハ霍乱脈ニ多く早き之冷ノ虚脈ニ眼心云沈ハ寒ハ
たゝすの脈ニ古人ハ下風ニ論ハ寒冷ニ不限
とハ云たすの出さる時ハ脈出ル早き之すの出さるのハ
て之他ノ
仲圓判云沈ハ虚ノ寒ノ出ノ脈ニ但ハ
脈沈病すの出るの時ハ脈ハ沈ハ病気ノすの出さ
そ法勝ノ虚或ハ切寒或ハ寒冷のむしとそ多ハ
さしあるとそれハ古人ハ之すと見て病外とハ
強ハ一脈ノみて二十二脈とハ

の云ふことめとうて如ふすとうて沈脈と知一脈とうて
る形れ面と来すると大ぶ子ぶ号もお月ち紐糸う色ゆ
ゐてうて沈入ッて実暑あるそひ毒すひと論ずして
は通ゞ虚号ゞ号と大ぶ智ゞ同ス毒すひ脈と沈脈ッ不
例る形と不号ゆて今沈入とあらそふ

一

沈結脈心云虚ゞ腎脈ノ中毒出ん虚ゞ腎ノ
虚ゞ脈を充ち毒も腎の虚ゞ出安岡云沈結もす
ひゞさしけつるゝこゝる肉ちくあく沈腎裏しるる
常ゞは脈出ん先い中脈あゝを肺大腸ゝせて息ノ色な
ゝゝてゝは脈出ん早ゝえゝもち脈いすひ木ゞ下焦虚

仲岡判云夫人ゝ脈沈結の脈い生る生ゝ下腎の虚ゞ
中毒出ん生る感とう〜ゝ生る生るは脈あて〜すひゞ沈脈虚ゝ
病性ゝう〜

百問答巻第二十六

一 大結安岡云大結い中毒ゞ毒ゝ毒ゝ毒下焦
ヨリ中腎ゝ出ん毒を多ゝう時い息脈も浮ゞ釈
動し脈浮大ゝ但沈ひゞす白下焦ゝ下或い間ゝ下るもし
時技脈出い毒毒ゞ脈中毒あゝを眼心云大結すひ
治ニテ再發ノ時出ん古人ゝは脈すひゞ論ずれいすひ中

焦脾胃あひさなりて下則いるやむものの色い辛金ゆう
安漢第九云す白痢病い上いげん下い滑とすとすて
辛げんとるとそこいへた脾胃邪熱腎膀胱いまく補
ゆうさん時い又くるのもと兼ねとと云時ハ結心出
仲岡判云大結い生病滑時い十二病ともに出たす白出ん
す例へ如出もと出ぶ脈出時大きくぶ小結細沉まりて
て出又云心痛ぶ脈おん刎沉辛交ん早急すの中脈へ
眼心甲
霍乱脈眼心云安十七筋痙攣ゆ小弦脈論ニ悪脈ニ
ささむ陰陽血熱心乱悪毒熱病ぶ脈出ん毛ッ死脈ニ

ささもまい乱病名死病ゆうへこわ左へも脈滑とと
つて行ゆや　安岡云霍乱の脈い四季たこ大悪脈へちこ
強い熱病血病ゆ脈出ん滑とといへた中ハ時ハ出滑の
ゆ熱心ぶ脈出ん滑ハ時ぶ病治ん　云脈論ニ
いかうへとまい霍乱の二字霍乱同ゆ又霍乱
の病前ゆ必出毛ッへ毛い右寸ハ左ハ三月悪脈
とのうこ季大悪脈へ
仲岡判云ぶ一脈不浮悪脈
と云ぶ右こ小ゆう滑時出ん　へんへんゆ脈い強脈強脈
ゆまん血乱て出右へもぶ脈ゆ治ん　ゆい不得　安岡甲
へ連ノ脈眼心云毛沉入の脈ノ脈ノ出のもへ陰陽沉へふ

為(百ところに海也かうゆへ)ところて寒冷脉へは脉虛
熱に男子尺腎腎脉の虛熱ホメテ出たる沈への
寒暑おこる病別さたへ 安固云入連ハ脾胃ノ熱ニ出
袋ろう五出出ろう云ハ陽脉ノ出ニ出脉
ゆへ出ハ出ハ不中焦ノ袋ニ入ハ袋ニ入て袋ハ
こゝ河ノ元出熱ノ為ノ少腎腎脉とあるし出入虛
冷ト云ハ脾胃ハ腎腎脉と云り又出ハ虛ニ出ハ出ハ
ハ脾胃ハ火熱ニ成ると云ハ
仲岡判云入連ハ虛熱ニ出沈入ハ寒ノ出入ハ寒ノ出ハ
ハ熱と云ハ寒ノかん寒ハ火冷熱ノ陽熱ノ温ニ出て

作ろ色さに寒暑ノ為ハ作ると作ると眼心あやまり多し
安岡甲

百問巻第二十七

一 活動脉 安岡云ハ寒暑ハ寒暑長病脉ハ大
方生病ハ但腎虛落ノ右腎ノ火消ての時此脉出ハ病さ
ようびろて出出ハ出ハ出ハ生病ハ出ハ出ハ出ハ
脉ハ眼心云ハ病ノ時ハ脉ハ生病ハ虛ニ出ハ虛熱ニ為
病因病凡病ニ出ハ寒暑不寒ノ食ハ出ハ出ハ但
ハ脉あれハ結病ろうハ出ハ出ハ脉ハ出ハ出ハ出ハ出ハ
と弁と云又十七斗中第中出出仕病ろ引

之又指て見いさつひくとの方の時の脈秘訣之
あり心は脈生たる古人口授の言則あるところにて秘伝
是学もは言とゆるの人百交こと交もしらずは平生学問
と捨て再度脈をまなぶ

仲圓判云自古来は脈の再度の脈うかがし眼心甲
乙徳の脈眼心云見心乙病ゆ血病之流へこと悪い心腎こと
出て は脈生ると古人伝をとりの中に遠たるもんを
くるの見時心生れい心乙ト云へ病ばかりをもって云し病の凡
病虚病熱病たこ中心こうの時は脈生ん心乙病もまた
安圓云乙徳病い乙極病脈へこと悪い古人も乙徳病い治ず

云し病脈病肩手ハ時は脈生ん手ハ見と云ひとこ
とこと或心乙血病見ハ云れくの面脈好脈極こと
とうこうの乙徳病いの人なんて

仲圓判云乙徳病の脈病し偏し但極見ある見ハ
又病たの心乙ばこうこと心悪こと偏ばこの時は
脈生又云乙病の席或ハ百或七日十日のあは脈生
悪ハ別乱病の療法と云ひ心治又云孫懐脈の時は
脈生悪ハ必こうこと或ハ六月こうこうれ心あ
こと人必之人は時はん後の平菓の中麻実菊花
おこの湯とあるこ(極悪ハ見ハ遠こうこと)は脈偏と判

古人もこれを用ひて百せい治を際限し生てこれを古人又
伝云又

一 老病 安玉云は脉生ずるなし厥こなりては脉生ずかるう
少く指老たるもの古人又老て又中しは脉しは時病ありて返
治いたんやせ学ぶ也ては脉生ずは則寿ちなりて返て早
き老病とおそくして返也服心云此脉老病おそく老病と
名付ること悪い治の病指てもこれを脉生ず安藻汁灸の
鍼治鍼老病の脉生ずは治せしとこれを老るの
ものにあらずして病の老と安藻十七脉論ものる老と名
ずと又云古人老る老ものは脉時返治病老とおそれるふう

早き時病年病久病時は脉論也景
仲國判云老病老病の老脉生ずるは脉生ずる色
老るの久病生ずる人双方ともいえ服心古人少生ず
学頭廣又古人云病老い治すとい年老い治ずるう
ものと也依し服心論治し

一 凡骨脉服心云肉蒲の虚満少虚熱こ出る時は
脉生ずれは肉蒲病と云い肺大腸冷虚少生ず安玉大腸と
入てこれとなるものは時必生ず是ものいとこれ早き時脉
肺大腸虚満少生
の脉也古来たは脉生ずるこれ病ことし治療ものは

論又脉の風へたる脉病は風離り骨肉骨離と論ずと云病は皮肉骨離と名付て脉病おりくこゝまつてそとおもてにつて病の骨と是と書たり　仲圓判云　安玉甲

一白問答巻第二十八

浮沈脉　安玉云是腎腑不通ゝ此脉出候ら左右も又不見ゝ手足冷ゝ異不相脉ゝ生病は治スルすおそく筋病は

ちすし息風ゝ病は死ス　打ち傷は浅あるといへは脉出ず

く眼心云たゝ脉出れ心肝五腑たゝ対臭ゝ病ゝ暑

も不動強病生病ゝ重強ゝ脉出れる者ゝ風息病も

の月十月又三月病はゝ不始ゝ脉初ハ不苦病

論ゝ格ゝ脉ゝ又云格熱ゝ霍乱ゝ付ゝ脉出れる例ゝ

ゝ脉ゝ　仲圓判云毒ゝ毒ゝ暑ゝ

ゝ張ゝ浮ゝ沈ゝ脉ゝ論ゝ左ゝ右ゝ友ゝ寸ゝ関ゝ尺ゝ脉ゝ出ゝ十二経ゝ

大部ゝ毒ゝ暑ゝ毒ゝ暑ゝ毒ゝ暑ゝ毒ゝ暑ゝ毒ゝ暑ゝ毒ゝ暑ゝ

腑ゝ肝膽ゝ毒ゝ暑ゝ毒ゝ暑ゝ毒ゝ暑ゝ毒ゝ暑ゝ毒ゝ暑ゝ毒ゝ暑ゝ

毒ゝ暑ゝ毒ゝ暑ゝ毒ゝ暑ゝ毒ゝ暑ゝ毒ゝ暑ゝ毒ゝ暑ゝ毒ゝ暑ゝ

毒ゝ暑ゝ毒ゝ暑ゝ毒ゝ暑ゝ毒ゝ暑ゝ毒ゝ暑ゝ毒ゝ暑ゝ毒ゝ暑ゝ

論多ゝ暑ゝ陳学ゝ論ゝ脉ゝ論ゝ脉ゝ論ゝ脉ゝ論ゝ脉ゝ論ゝ脉ゝ論ゝ脉ゝ

石連ゝ脉眼心云毒ゝ脉ゝ脉ゝ脉ゝ脉ゝ脉ゝ脉ゝ脉ゝ脉ゝ脉ゝ脉ゝ

股胸間の邊肩に出る瘡に汁を出る痛所のうるおいなす

安岡云け脉打身の悪血うごくと為て出るなり

右脉打身ゆるく脈股面る下焦と打るこゝろにて股ゆひとうまくとうらうるにうるおうこゝろ形

病人動労れ血病と為るもあり又打身にて瘡と為も

あるいは打身の悪血病と為て出るにもあり偽

け脉出るに打身の如きもあり少瘡加減合某也

仲岡判云石連たる打身にて出るもの也 路結痛

身の悪血うごくこゝろ瘡と為るもあり此脉為

して結病痛所の色異なる右邊と赤うるに前股に脉を

といひて出るえさ汁の右邊とうるおうあるもの也痛所の血

為と右脉書に一定ならずこゝは脉に痛身ッ不来論之

一 麻但し脉 安岡云け脉死脉なりとは凡病息病

中凡出るうるおうこゝは結病に此脉不為眼心云右死脉

はきめとうれしき為に因病牢病去病右後血氣死て脉

出る結病に生病十二病なりとは此脉不出牢去病拔

命こゝは脉なり 仲岡判 眼心甲

一 息脉表息眼心云是ち病にあるもの也 食の表

或は生るに熱労に出るこゝを中に陽息出るは不消合

大腸胃の腑に為て合樂こゝは息出る消もれは別手息

また物熱に陰虚の息いたるものは指にて大温にてうさ
れて腹中陰液は虚虚冷生ずるうちをうなせば別脈
温入門浮なれば別法なし　安田云遠息は平るの時は右の論
同す　但病ある人は脈生れいたれば大切なり　名医治
なるといへども小病は病あるべきなり
仲国判云此脈古人三部に論す寸中の陽息は腎熱に人食の
味炭火冷息は霍乱脈に論す生病は脈生れ時は虫毒病
少法なるものなり　細論を為べきなり

百問答巻第二十九

沈微小脈　安田云早き人血虚の心冷えは脈沈て病

一

落たれは虚労に心悸をうこうしもむ脈
心云此脈は依腎の虚と云て取分腎脈の虚に依て
虚労なるなり此病少痛所痛なる人血虚分
ちは心の虚ここそ古人も論す色白れ　仲国判云寒病
なり虚液　但短病生ずる病は脈生れは虫の脹液又此病
息病に生別心悸と名付但腎脈の虚液分は内経
悸て液なり　脈生て内経生れる分内経息
此分て力虫にて胃動おすし論文不明白

一

細大脈服心云是は新生の脈　但胸と打るる此脈
なれ無名打生の脈は年息大息生れと打多の脈古来

脈は平息細少なる中に大息
あるを細なるを脈とす〇〇とあるを打るがごとくにして
心又血道なとうて病し後の血病は息細少なるを
ゆえ胸とうち心血散乎息なるを平息打多の脈
安西云細大の脈は心虚熱不食ゆえ心虚なるを
て細脈とゆえ細大の二字脱 仲圓判云
安漢中後虚の病の中に主て後病こうし
て熱に成時此脈出る或は生病の重き冷不熱後
時も此脈出平息打多脈を冷の病熱後時の脈と同
人脈也

一驚息 安圓云尤五数無脈の中にも死脈ホノ
大無脈に死も打多こうまりて此脈出るは十日の中に必
死スと云は此脈出るものもあり余の病後後
ちに不出眼心云後病ともに相後〜血脈多く心の異
〜或の息多くんとする時此脈出る脈血道死〜
ちなるうて打多のさうなる新よあるなる
仲圓判云驚息は尤死脈なり後脈後乃人百病なり
後ちなる此脈出眼心甲

一変化業ちなる相眼心云されは尤うけ安西一乃名業さ
つとい尤死と脈ちなる不変化業ちなる通ちうと云る

てこれと合せ只和とこゝ
るゝことにこゝろている曲しあり又人ゝとおそれて法曲を
もまた芒硝を毒人とする念てうるゝ毒と名付人ゝを
らゝおそろしう恐て是をうゝ志こゝろ
後こゝいてうふと陽と名付こゝもとあり毒薬
て心肝五臓と別法始めこゝ毒するゝ不合薬ゝ人ゝとお
れ陽術のるゝハ毒薬ゝやうけ心こゝとて後しゝ大
法るゝ毒こゝもこゝゆるゝこゝふゞ毒ゝ安間云
右来うゝ無陽術こゝ毒ゝ人ゝとにこゝ又人ゝおそれ
こゝ曲こゝうんて芒硝ゝ来こゝ人ゝ毒てこゝこゝ法術

まこゝる毒と見薬と合こゝるゝ大学といこゝんやこゝ毒ゝ毒
とんゝふまこゝ大こゝ為ゝに筋骨ゝこゝ服ゝこゝ
身の色つゝこゝ志こゝもうゝすゝあるゝもこゝ毒薬ゝ先立心肝
五臓とこゝ法ゝ治こゝ筋骨こゝ服ゝこゝ扁鵲のもや
ゝゝ眼ゝゝ心こゝらゝ毒薬とやうけ大術
こゝ気ゝ色こゝうゝにゝ合薬こゝ　仲国判云左右
ゝの術古人ゝ先立おゝ使ゝ右の言のこゝるゝ
こゝ心の相応こゝ法こゝけゝもこゝゝ毒こゝ学
近不法術古人云念法ゝ為こゝ行せこゝ
れゝこゝこゝ毒こゝ我心こゝれゝこゝゝ

一合ちとも偽し右の言も信へおもく倫同の信へ

百問答第三十

一 陰連の次第　安玉変化の曲折〻曲にして安連不ちく〻変化の業いと業とさらく〻也口裏入毒とかまにして〻高松左人多〻の倫ものと以也只る無陽二と凡ち甲しちさらして学の上下ゆくむ年ちゐる別宮一別ちもく海と大学と云るとこるもと云て遊てかく〻宮スちと小学ちしもこれハ倫の曲教化ちて治ちも陰也ハちる の性ゆ去て別陽表るとち生ス

陰連乃ち変〻　眼心云これハ陰連ハ左人もるの曲にちて宮ちるもちち又ちらちらち生れもちちハ大小学の二ちと云ひちへちるとと宮ちちへさよハあるちち年ちち大学大眼力と以治し

仲岡判云左人の倫の陰連ハ多ちもちて宮ゆ眼心倫ゆ乳ちたのとハと同ちと也ちと宮ゆ生れと云も陰連ちて宮せちもて則表ちる陽ちるとかちと也

年ちち　安玉甲

一 仲玉ちへ文年ちち云大宝日〻中宮中凡ちて左ちも倫陰冷れ小央消ちちちと左小又大極無異日業天ゆ大法ちて倫陰樊ち倫陰消央ゆ小水別ちと左

小毎人ハ花ヲ判ニ氣ノ治ハ服ル云自ラ元我ホ云学ヲ
云所是ニシテ心ニ元ルモこりうすくなりシテ君花前りて花根
乃ち明文にたてるなりおかれしとへとも先在人の治を先ニ云
て花ヲ絶ス大正云陰ヲ加剤ハ茶五臓ニ満不加剤ハ
茶半途ニ消ス陽力加則ハ茶六腑ニ満陽力不加剤
ハ茶半途ニ消也同云ニ二季たニ文ルハたてまつるハ
うし花ハ二季の波岸ヲ是ヲ論ヲ又云安薬ハ弁丸ニ
宜ニ病ハ病ヲ削ル難病ハ生木ニ川ふとあ治つうとし
ところ託ヲ見ル諸脈ヲ親し心ニ志とめくらし花治せハ
うし宜ニ病極宜ニて治ル安西云宜ニ病ハ因窂病りて長

病ニシテニ性流らし難病絶病ニシテ性活なり依し古人
も大分ハ温くらし大火ハ消なそしところ是ハ病ニシテ此れ
てあるてものすたる学の古人之火ヲ分て消らす小学
の常安也と云難病学ニシテ病性活也て治せ人たる
生死ハ門前也　仲國判云毎人の説德也治術古人
も窟長病ホシテ死ヌるあそし難病ハ絶病ニシテ
死するなやし也又ナル是し云冷病ハ生死ヲと
りて治するなく可し　難病ハ絶ホシテ生死なや
く治するの文なやし之徃てるての性て毎人ハ生
さ氣ノ治ハ故ゆ人ハ治之此言ヲ生す毎人の学を安宜

熟たゝ病の甲し充ひ[illegible]ものを性とをくしてゝ[illegible]
皮肉おとろへ佐腎[illegible]極熱炭[illegible]
[illegible]
大[illegible]月[illegible]八治するうゝ

百問答三十巻終

業腎新方腎

仲祺

坂内孫[illegible]